

～多くの人に能楽を知ってもらいたい～



今月の表紙

巻頭特集で紹介した余呉小中学校の皆さんです。取材を通じて感じたのは、子どもたちの自主性や積極性。どんな長浜の未来を描いてくれるのか、今からとても楽しみです。(2月7日撮影)

撮影場所：古橋正邦さん宅能舞台(平方町)

「長浜でも能を盛り上げていきたいです」。物静かな中でも威厳を感じる声で語る古橋さん。観世流のシテ方として全国で公演を行っており、平成13年に重要無形文化財総合認定保持者となった能楽師です。

同認定保持者で、滋賀県文化奨励賞を受賞した父親の影響で幼い頃から能に触れ、自宅の能舞台で稽古を積みました。能が好きで、稽古も楽しみながらやっていう古橋さん。3歳のときに子方として初舞台を踏みしました。その後、長浜曳山まつりの子ども歌舞伎にも2度出演。「父も出演したことがあり、ご縁を感じました」と当時を思い出します。

その後、父親も過去に師事した、人間国宝の九世片山九郎衛門(片山幽雪氏)の内弟子となるため京都へ。厳しい稽古

の中で、能の技術を磨き、28歳の時に長浜に戻ってきました。

京都を中心に全国で舞台を勤め、文化庁の事業で全国の小中学校での公演をこなしながら、自宅の能舞台や、近畿と東海各地で、「竹謳会」として能楽教室を開いている古橋さん。「よく耳にする『初心忘るべからず』という言葉は実は観世流の世阿弥の言葉で、若い頃から胸に刻んでいる言葉です。舞台に立っている時も、能楽教室で指導をしている時も、常に基本にかえり、おごらないことを心がけています」と語ります。

全国で活躍する古橋さんですが、長浜で能を披露することはあまり多くないそうです。「長濱八幡宮の秋の例祭や今重屋敷能舞館で公演を行うこともありますが、能を披露する機会があま

りありません。秀吉の時代から長浜は能が盛んだったといわれているので、少し寂しい気持ちになります」と古橋さん。

そのような中、昨年、長浜青年会議所が主催した竹生島のライトアップイベントで、演目『竹生島』を演じました。「演目の題材となった場所、またライトアップされて幻想的な舞台で能を披露でき、とても感慨深く感じました」と語ります。

「披露する機会を増やしていったら長浜の多くの人に能楽を見て、興味を持ってほしい。能楽の面白さを知ってもらうことで、敷居を低くして、誰もが楽しめるようにしていきたい」。熱く力強い想いを持ち、秀吉の時代のように能楽を身近に感じられる長浜をめざします。

## Smile Smile

このコーナーでは、市内在住のお子さんたちの写真を掲載します。笑顔と元気あふれるお子さんたちの写真を募集しています。掲載を希望する人は市民広報課(☎65-6504)まで申込みください。



いつも元気いっぱい、ニコニコ笑顔の小晴ちゃん！これからますます育ってね！

新堂  
小晴ちゃん(平成28年12月生まれ)  
(祇園町)



兄弟仲よし。元気にスクスク育ってね！

清水  
賢志郎ちゃん(平成26年5月生まれ)右  
孝志郎ちゃん(平成28年6月生まれ)左  
(堀部町)

| まちの人口 | 平成31年2月1日現在 | 人口118,437人 | 男58,043人 | 女60,394人 | 世帯数45,755世帯  |
|-------|-------------|------------|----------|----------|--------------|
|       | 平成31年1月中の異動 | 転入247人     | 転出225人   | 出生64人    | 死亡150人 婚姻39件 |



植物油インキで印刷しています。再生紙を使用しています。

「広報ながはま」は、各自治会を通じてお届けすることを原則としていますが、市民交流センターや図書館、まちづくりセンターなど市の公共施設にも置いています。市ホームページ、スマホからご覧いただけます。点字広報、声の広報を作成していますので、ご希望の方は市民広報課まで。